

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和6年2月29日

評価対象事業名: 地域間幹線系統確保維持費国庫補助金

関東運輸局

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	地方運輸局等における二次評価結果	備考	
							評価結果		
栃木県生活交通対策協議会	関東自動車株式会社	宇都宮駅～日光東照宮(車両減価償却費国庫補助適用)	自社アプリの開発 バスロケーション運行実績を基にダイヤ設定を行い、質の高い輸送サービスを提供	A	計画2,726回に対して、実績2,726回となり、計画していた運行回数通りとなった。	A	目標277人/日に対して、325人/日となった。	ピーク時間帯の運行の維持 付加サービス(バスロケ・アプリ・サイネージ)の維持	<p>・事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施されている。</p> <p>・目標・効果達成状況については、概ね目標を達成しており評価できる。結果の要因を分析し、需要動向や事業の実施状況の把握に務めること。</p> <p>・自社アプリやバスロケーションシステムからの利用状況をもとにダイヤ編成など移動円滑化策を実施したことは評価できる。引き続き生産性向上の取組を実施することが望ましい。</p>
	関東自動車株式会社	宇都宮駅～今市車庫(車両減価償却費国庫補助適用)	自社アプリの開発 バスロケーション運行実績を基にダイヤ設定を行い、質の高い輸送サービスを提供	B	運行ダイヤの変更により、計画1,954回に対して、実績1,952回となり、計画していた運行回数に届かなかった。	A	目標197人/日に対して、243人/日となった。	ピーク時間帯の運行の維持 付加サービス(バスロケ・アプリ・サイネージ)の維持	
	関東自動車株式会社	宇都宮駅～船生(車両減価償却費国庫補助適用)	自社アプリの開発 バスロケーション運行実績を基にダイヤ設定を行い、質の高い輸送サービスを提供	B	運行ダイヤの変更により、計画2,600回に対して、実績2,596回となり、計画していた運行回数に届かなかった。	A	目標263人/日に対して、309人/日となった。	ピーク時間帯の運行の維持 付加サービス(バスロケ・アプリ・サイネージ)の維持	
	関東自動車株式会社	宇都宮駅～荒針～鹿沼営業所	自社アプリの開発 バスロケーション運行実績を基にダイヤ設定を行い、質の高い輸送サービスを提供	B	運行ダイヤの変更により、計画2,403回に対して、実績2,391回となり、計画していた運行回数に届かなかった。	A	目標216人/日に対して、254人/日となった。	ピーク時間帯の運行の維持 付加サービス(バスロケ・アプリ・サイネージ)の維持	
	関東自動車株式会社	宇都宮駅～免許センター～榎木車庫	自社アプリの開発 バスロケーション運行実績を基にダイヤ設定を行い、質の高い輸送サービスを提供	A	計画1,749回に対して、実績1,749回となり、計画していた運行回数通りとなった。	A	目標133人/日に対して、157人/日となった。	ピーク時間帯の運行の維持 付加サービス(バスロケ・アプリ・サイネージ)の維持	
	関東自動車株式会社	宇都宮駅～石橋駅	自社アプリの開発 バスロケーション運行実績を基にダイヤ設定を行い、質の高い輸送サービスを提供	B	運行ダイヤの変更により、計画4,168回に対して、実績4,163回となり、計画していた運行回数に届かなかった。	A	目標322人/日に対して、392人/日となった。	ピーク時間帯の運行の維持 付加サービス(バスロケ・アプリ・サイネージ)の維持	
	関東自動車株式会社	駒生営業所～田原～玉生車庫	自社アプリの開発 バスロケーション運行実績を基にダイヤ設定を行い、質の高い輸送サービスを提供	A	運行ダイヤの変更により、計画2,013.5回に対して、実績2,015.5回となり、計画していた運行回数を超えた。	A	目標247人/日に対して、271人/日となった。	ピーク時間帯の運行の維持 付加サービス(バスロケ・アプリ・サイネージ)の維持	
	関東自動車株式会社	駒生営業所～田原～今里	自社アプリの開発 バスロケーション運行実績を基にダイヤ設定を行い、質の高い輸送サービスを提供	B	運行ダイヤの変更により、計画2,091.5回に対して、実績2,082.5回となり、計画していた運行回数に届かなかった。	A	目標201人/日に対して、243人/日となった。	ピーク時間帯の運行の維持 付加サービス(バスロケ・アプリ・サイネージ)の維持	
	関東自動車株式会社	駒生営業所～田原～グリーンタウン	自社アプリの開発 バスロケーション運行実績を基にダイヤ設定を行い、質の高い輸送サービスを提供	C	期中の運行回数が変更となったため、計画1,481回に対して、実績1,119回となり、計画していた運行回数に届かなかった。	A	目標82人/日に対して、113人/日となった。	ピーク時間帯の運行の維持 付加サービス(バスロケ・アプリ・サイネージ)の維持	
	関東自動車株式会社	駒生営業所～屋板～上三川車庫	自社アプリの開発 バスロケーション運行実績を基にダイヤ設定を行い、質の高い輸送サービスを提供	A	計画1,897.5回に対して、実績1,897.5回となり、計画していた運行回数通りとなった。	A	目標191人/日に対して、253人/日となった。	ピーク時間帯の運行の維持 付加サービス(バスロケ・アプリ・サイネージ)の維持	

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)	地方運輸局等における 二次評価結果		備考
							評価結果		
栃木県 生活交通対策協議会	関東自動車株式会社	駒生営業所～平松～西汗	自社アプリの開発 バスロケーション運行実績を基に ダイヤ設定を行い、質の高い輸送 サービスを提供	B	運行ダイヤの変更により、計 画1,992回に対して、実績1,990 回となり、計画していた運行回 数に届かなかった。	A	目標231人/日に対して、270人 /日となった。	ピーク時間帯の運行の維持 付加サービス(バスロケ・アプリ・ サイネージ)の維持	
	関東自動車株式会社	西原車庫～ベルモール～真岡 営業所 (車両減価償却費国庫補助適 用)	自社アプリの開発 バスロケーション運行実績を基に ダイヤ設定を行い、質の高い輸送 サービスを提供	A	計画4,144.5回に対して、実績 4,144.5回となり、計画していた 運行回数通りとなった。	A	目標417人/日に対して、492人 /日となった。	ピーク時間帯の運行の維持 付加サービス(バスロケ・アプリ・ サイネージ)の維持	
	関東自動車株式会社	宇都宮東武～橋場～真岡営業 所 (車両減価償却費国庫補助適 用)	自社アプリの開発 バスロケーション運行実績を基に ダイヤ設定を行い、質の高い輸送 サービスを提供	B	運行ダイヤの変更により、計 画1,672.5回に対して、実績 1,669.5回となり、計画していた 運行回数に届かなかった。	A	目標158人/日に対して、177人 /日となった。	ピーク時間帯の運行の維持 付加サービス(バスロケ・アプリ・ サイネージ)の維持	
	関東自動車株式会社	宇都宮東武～ベルモール～益 子駅前	自社アプリの開発 バスロケーション運行実績を基に ダイヤ設定を行い、質の高い輸送 サービスを提供	A	計画3,270回に対して、実績 3,270回となり、計画していた 運行回数通りとなった。	A	目標330人/日に対して、393人 /日となった。	ピーク時間帯の運行の維持 付加サービス(バスロケ・アプリ・ サイネージ)の維持	
	関東自動車株式会社	氏家駅～馬頭車庫	自社アプリの開発 バスロケーション運行実績を基に ダイヤ設定を行い、質の高い輸送 サービスを提供	B	運行ダイヤの変更により、計 画2,189回に対して、実績2,183 回となり、計画していた運行回 数に届かなかった。	C	目標120人/日に対して、51人/ 日となり、目標に届かなかっ た。	ピーク時間帯の運行の維持 付加サービス(バスロケ・アプリ・ サイネージ)の維持	
	関東自動車株式会社	西那須野駅東口～馬頭車庫	自社アプリの開発 バスロケーション運行実績を基に ダイヤ設定を行い、質の高い輸送 サービスを提供	B	運行ダイヤの変更により、計 画2,132回に対して、実績2,127 回となり、計画していた運行回 数に届かなかった。	A	目標216人/日に対して、218人 /日となった。	ピーク時間帯の運行の維持 付加サービス(バスロケ・アプリ・ サイネージ)の維持	
	関東自動車株式会社	西那須野駅東口～五峰の湯	自社アプリの開発 バスロケーション運行実績を基に ダイヤ設定を行い、質の高い輸送 サービスを提供	B	臨時便の運行回数が減少した ため計画1,869回に対して、実 績1,849.5回となり、計画してい た運行回数に届かなかった。	A	目標159人/日に対して、159人 /日となった。	ピーク時間帯の運行の維持 付加サービス(バスロケ・アプリ・ サイネージ)の維持	
	関東自動車株式会社	大田原市役所～五峰の湯	自社アプリの開発 バスロケーション運行実績を基に ダイヤ設定を行い、質の高い輸送 サービスを提供	A	臨時便の運行により、計画 2,355回に対して、実績2,386.5 回となり、計画していた運行回 数を超えた。	C	目標159人/日に対して、113人 /日となり、目標に届かなかっ た。	ピーク時間帯の運行の維持 付加サービス(バスロケ・アプリ・ サイネージ)の維持	
	関東自動車株式会社	那須塩原駅～那須湯本温泉	自社アプリの開発 バスロケーション運行実績を基に ダイヤ設定を行い、質の高い輸送 サービスを提供	A	臨時便の運行により、計画 6,570回に対して、実績6,587.5 回となり、計画していた運行回 数を超えた。	A	目標261人/日に対して、306人 /日となった。	ピーク時間帯の運行の維持 付加サービス(バスロケ・アプリ・ サイネージ)の維持	
	関東自動車株式会社	宇都宮駅東口～上野団地～岡 本駅西口	自社アプリの開発 バスロケーション運行実績を基に ダイヤ設定を行い、質の高い輸送 サービスを提供	B	運行ダイヤの変更により、計 画8,123.5回に対して、実績 8,098.5回となり、計画していた 運行回数に届かなかった。	A	目標317人/日に対して、362人 /日となった。	ピーク時間帯の運行の維持 付加サービス(バスロケ・アプリ・ サイネージ)の維持	

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	地方運輸局等における二次評価結果	備考
							評価結果	
栃木県生活交通対策協議会	ジェイアールバス関東株式会社	塩原本線 (西那須野～塩原温泉)	<ul style="list-style-type: none"> ・溪谷フリー切符をふるさと納税の返礼品として継続中 ・企画乗車券を高速バスネットプラスにより販売継続中 ・ふるさと納税の宿泊券送付の際に、バス利用割引券(300円)の同封を継続中 ・利用促進として、特殊定期券(学生)の発売を継続中 	A 計画:3,892回 実績:3,892回 計画通り実施された	B <ul style="list-style-type: none"> ・企画乗車券については、コロナが5類となり、人の移動に制限がなくなったことから、販売枚数は対前年比143%と大幅に増加した。 ・利用客数については、目標220人/日に対し、実績218人/日となり、昨年度の実績181人/日より利用増となり、目標達成まであと一歩のところまできた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・関係自治体、観光協会、地域事業者との連携強化を図る(今年度もJR東日本が「那須塩原MaaS」を計画している) ・YouTube(公式チャンネル)、車内掲示、HP等で地域観光を含め、幅広く商品のアピールをしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施されている。 ・目標・効果達成状況については、概ね目標を達成しており評価できる。結果の要因を分析し、需要動向や事業の実施状況の把握に務めること。 ・新型コロナウイルスの5類への移行もあり企画乗車券の販売が大幅に増加していることから、アフターコロナにおける利用状況等の検証を行うとともに、来訪者の動向を調査し分析を行った上で、効果的な利用促進策の検討を進めていくことが望ましい。 	
	日光交通株式会社	路線名:鬼怒川線 起点:鬼怒川温泉駅 経由地:JR今市駅、下今市駅 終点:イオン今市 系統キロ:17.5km 運行回数:9.0回	<ul style="list-style-type: none"> ①QRコード決済の導入は準備に時間を要し、導入が次年度にずれ込むこととなった。 ②令和5年1月4日の獨協医大日光医療センターの移転に伴い、移転先への乗り入れを開始し、病院従業員などの利用増加を図っている。 ③ホームページ等を利用し、より分かりやすい情報発信に努めることで、利用促進を図っている。 	A 計画:3,300.5回 実績:3,300.5回 差引:±0回	C <ul style="list-style-type: none"> 利用者目標:200人/日に対し、実績130人/日となり、目標を下回った。 目標不達成の要因:新型コロナウイルス感染拡大によるライフスタイルの変化及びワールドスクウェア経路系統の補助対象からの除外 	<ul style="list-style-type: none"> ①利用客の利便性向上のためPayPayなどのQRコード決済を導入し、新規顧客層の開拓を図っていく。 ②ホームページ等を利用し、公共交通の利用促進を図っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施されている。 ・目標・効果達成状況については、設定した目標を大きく下回る結果となった。結果の要因を分析し、需要動向や事業の実施状況の把握に務めること。 ・QRコード決済等の利便性向上に向けた取組に期待したい。 	

第三者委員会における各委員からの意見

令和5年度地域公共交通確保維持改善事業第三者評価委員会における委員による以下の助言は、今後の取組みを行う上で必要な観点であり、考慮されたい。
○コロナ後の動向や人手不足など様々な側面で今が変わり目である。
○地域とコミュニケーションをとりながら、データに基づき地域全体の将来像を打ち出し具体的な目標を立てて、成果や課題など数字で示すことが重要。